バスによる避難体験、初めて実施

上越市で3回目の原子力防災訓練

18日は原子力防災訓練の日でした。上越市が原子力防災訓練に取り組むのは今回で3回目です。今回は情報伝達訓練及び屋内退避訓練とバスによる避難経由所までの移動体験がメインでした。

訓練の対象は柿崎区、吉川区の全域、大島区、浦川原区、大潟区の一部町内会が入っているＵＰＺ区域内の5128世帯、１万4526人（今年４月１日現在）です。ただし、バスによる移動体験は柿崎区の第３～第５区町内会と吉川区の水源地区（尾神、坪野）にしぼられました。

私は、元は尾神の住民でしたので、避難のための一時集合場所であるスカイトピア遊ランドへ行き、訓練の様子を見せてもらいました。８時半、８時45分、９時10分の防災無線を通じての放送は、拡声器のそばにいましたのでよく聞こえました。他地域ではどうだったのでしょうか。

水源地域はこのところ一気に高齢化が進んできて、避難行動要支援者が過半数の地域です。遊ランドには何人も集まらないのではないかと思っていたのですが、尾神６人、坪野11人、その他１人とよく集まりました。遊ランドに集合した人たちは直江津観光の大型バスに乗り込み、避難経由所（水源の人たちにとっては避難所）である頸城・希望館を目指しました。

希望館では、原子力アドバイザーによる原発事故が発生したときの放射性物質の放出、安定ヨウ素剤の予防服用などについて説明がありました。また、希望館へ移動するまでに放射性物質が人体に付着していないかを検査するスクリーニング体験も行われました。説明を聴いた人の中には、「一度聴いたくらいではわからない」という声もありました。よりわかりやすい説明のために工夫が必要ですね。

19日の市議会厚生常任委員会と心身障害者福祉団体連合会の懇談会で声が上がったことのひとつは高田公園のトイレ。車イスが入らない、段差がある。改善が必要ですね。市役所の「おもいやり駐車場に屋根を」という訴えも当然です。

トウガラシの分別作業中の大島区の竹平生産組合の人たち。今年はいつもの半分以下の収量だとのことでした。11月15日撮影。

【コシロノセンダングサ】キク科の１年草。漢字で「小白栴檀草」と書きます。シロバナセンダングサとも呼びます。花期は９～11月。荒れ地や農道などでいま咲いています。花言葉は、「不器用」「私にもぴったり」。吉川区にて撮影。

はしづめ法一の活動レポート

No.1885 2018.11.25
発行･編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見てある記」は←こちら
橋爪法一 検索

春よ来い　第五三回　梅のカリカリ

漬物はどの季節に食べても美味しいですね。いまの時期なら、ちょいと訪ねたときにカブ、ハヤトウリなどの漬物をお茶と一緒にいただくと最高に幸せです。

季節は前に戻りますが、外へ出るのが怖いくらい暑い日、ある集落で一人暮らしをしているYさんのお宅を半年ぶりに訪ねました。

Yさんの仕事場でお茶をご馳走になっていたとき、梅を固く漬けたカリカリのことが話題となりました。梅のカリカリ漬けは私の大好きな漬物のひとつですが、梅のカリカリはYさんの得意な漬物だということもあって、私に漬け方を教えてくださいました。

「あのね、海水くらいの水で、ちょっとしょっぱいくらいのので一晩だけ漬けるが。漬けたら次の日にザルにあげて、水切ったら今度は塩ぞっきで漬けんが。白くなるほどね。それを半日か一日置いとくが。そうすると茶色になるが。今度は塩のまんま、水出んこて、その塩ぞっきで漬けたときの汁、その水を大事にしておくが。いっぱい出ねが。それをまた使うんだわ。それを今度は梅割り、これ売ってるが。ここに入れてパッと押すが。そんで梅の種とるが」

説明の仕方に、ものすごい力が入っていて、何度も繰り返す「が」言葉が仕事場に大きく響きました。しかも、しゃべり方が速い。漬け方を携帯電話のメモ帳に記録していた私も大忙しでした。

Yさんの話は続きます。

「いっときが勝負。半日くらい水につけておかんでいいな。塩出ししたら、水をよく切って、そこにシソほしいわけ、夜中でも取りに行ってきたわね。さっと洗って水切って、シソもんで。そんで、海苔のびん、三キロ入るが。そこに白砂糖ひいて、シソ、梅、砂糖、シソ、梅、砂糖と重ねて、最後に上から手で押してくんて、最後に、にがりの水をかける。カップに八分目くらいかけて。酢をカップに少し入んてね。すぐに色が出て、食べられる」

「が」言葉こそ少なくなりましたが、依然として力は入っています。Yさんのしゃべりのスピードについていかれなくなったので、「レシピ、書いていなんねがかね」と訊いたら、「レシピは探せばあるが」と言ったきり……。今度は梅そのもの話になりました。

Yさん宅の梅の木、今年は鈴なりだったとか。でも、いっぱいなった分、梅の大きさは小ぶりだったようです。これまでと同じように、美味しいカリカリ漬けにこだわるYさんは、自分の家の梅を諦め、市販の梅を求めました。Yさんは言いました。

「でっけがほしかったすけ一〇キロ買ったが。直径二センチくらいの梅、でっかいがほしいが」

梅の大きさがカリカリ漬けをつくる上でどんな影響があるのか、私にはわかりません。Yさんが「が」を強く言うようになったことから判断すると、大きい梅の実をカットして使った方が口に入れたときの感触のいいものを作れるのかも知れません。

梅のカリカリ漬けは一週間くらいで食べられるそうです。「これ、おれ作ったが」と言って、友だちなどに食べてもらえば、必ずほめられるに違いありません。

Yさんのお連れ合いが亡くなったのは九年前。一時は元気をなくしていたYさんですが、カリカリ漬けなどで人にほめられ、頼りにされ、いまはすっかり元気になりました。「おまん、梅のカリカリいらんが」と言われる前に、そろそろYさん宅に行って来なきゃ。

トークセッション、「これからの地域と仕事の未来を語ろう」

人口減少が続く時代のなかでどんなまちづくりをしていったらいいのか。13日、高田世界館で開催された地域情報誌「あどば」主催のトークセッションに参加してきました。

セッションでは、五十川ルリ子さん、竹内義晴さん、指出一正さん、影山直志さんの４人が地域づくりなどについてそれぞれの思いを語りました。

結論から言うと、自分たちが住んでいるまちを面白くし、未来を展望できる、とてもいいセッションだったと思います。人口が減っていっても、幸せを感じる地域社会をつくっていくには、自分のまちをもっと面白くする、楽しくすることが大切だということを改めて確認できました。そのためには若い人たちの気持ちをしっかりつかむこと、もっと足元を見つめて、自分たちが住んでいる地域の美しさ、魅力を見つけ、発信することが求められることも学びました。

４人の発言の中で、注目した言葉のいくつかを紹介します。

- 上越で、めっちゃ面白いことを増やせ。グローバル、インバウンドの時代は終わっている。
- （若い人を多くするには）若い人が滞留する箱モノが必要だ。
- 観光以上、移住未満の人が関係人口。交流人口と定住人口の真ん中の人を言います。地縁も血縁もないところに何故若者が行くか。都会の若い人たちはお盆を知らない。不安でたまらないからだ。
- 関係人口はファンでもない、ボランティアでもない、サポーターでもない、プレイヤーです。住んでないだけで、思いは住んでいる人と同じです。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。１時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は１時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だとのことです。

	11月14日（水）	11月21日（水）
上越南消防署	０．０４７	０．０５０
上越北消防署	０．０４７	０．０４０
新井消防署	０．０５０	０．０４０
頸北消防署	０．０４３	０．０５０
頸南消防署	０．０６０	０．０５７
東頸消防署	０．０４７	０．０４０
高士分遣所	０．０４７	０．０４７
名立分遣所	０．０５３	０．０４３

春よ来い　第五三回　梅のカリカリ

漬物はどの季節に食べても美味しいですね。いまの時期なら、ちょいと訪ねたときにカブ、ハヤトウリなどの漬物をお茶と一緒にいただくと最高に幸せです。

季節は前に戻りますが、外へ出るのが怖いくらい暑い日、ある集落で一人暮らしをしているYさんのお宅を半年ぶりに訪ねました。

Yさんの仕事場でお茶をご馳走になっていたとき、梅を固く漬けたカリカリのことが話題となりました。梅のカリカリ漬けは私の大好きな漬物のひとつですが、梅のカリカリはYさんの得意な漬物だということもあって、私に漬け方を教えてくださいました。

「あのね、海水くらいの水で、ちょっとしょっぱいくらいのので一晩だけ漬けるが。漬けたら次の日にザルにあげて、水切ったら今度は塩ぞっきで漬けんが。白くなるほどね。それを半日か一日置いとくが。そうすると茶色になるが。今度は塩のまんま、水出んこて、その塩ぞっきで漬けたときの汁、その水を大事にしておくが。いっぱい出ねが。それをまた使うんだわ。それを今度は梅割り、これ売ってるが。ここに入れてパッと押すが。そんで梅の種とるが」

説明の仕方に、ものすごい力が入っていて、何度も繰り返す「が」言葉が仕事場に大きく響きました。しかも、しゃべり方が速い。漬け方を携帯電話のメモ帳に記録していた私も大忙しでした。

Yさんの話は続きます。

「いっときが勝負。半日くらい水につけておかんでいいな。塩出ししたら、水をよく切って、そこにシソほしいわけ、夜中でも取りに行ってきたわね。さっと洗って水切って、シソもんで。そんで、海苔のびん、三キロ入るが。そこに白砂糖ひいて、シソ、梅、砂糖、シソ、梅、砂糖と重ねて、最後に上から手で押してくんて、最後に、にがりの水をかける。カップに八分目くらいかけて。酢をカップに少し入んてね。すぐに色が出て、食べられる」

「が」言葉こそ少なくなりましたが、依然として力は入っています。Yさんのしゃべりのスピードについていかれなくなったので、「レシピ、書いていなんねがかね」と訊いたら、「レシピは探せばあるが」と言ったきり……。今度は梅そのもの話になりました。

Yさん宅の梅の木、今年は鈴なりだったとか。でも、いっぱいなった分、梅の大きさは小ぶりだったようです。これまでと同じように、美味しいカリカリ漬けにこだわるYさんは、自分の家の梅を諦め、市販の梅を求めました。Yさんは言いました。

「でっけがほしかったすけ一〇キロ買ったが。直径二センチくらいの梅、でっかいがほしいが」

梅の大きさがカリカリ漬けをつくる上でどんな影響があるのか、私にはわかりません。Yさんが「が」を強く言うようになったことから判断すると、大きい梅の実をカットして使った方が口に入れたときの感触のいいものを作れるのかも知れません。

梅のカリカリ漬けは一週間くらいで食べられるそうです。「これ、おれ作ったが」と言って、友だちなどに食べてもらえば、必ずほめられるに違いありません。

Yさんのお連れ合いが亡くなったのは九年前。一時は元気をなくしていたYさんですが、カリカリ漬けなどで人にほめられ、頼りにされ、いまはすっかり元気になりました。「おまん、梅のカリカリいらんが」と言われる前に、そろそろYさん宅に行って来なきゃ。

公園管理、イノシシ対策、市道管理などで要望次々

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。１時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は１時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だとのことです。

	11月14日（水）	11月21日（水）
上越南消防署	０．０４７	０．０５０
上越北消防署	０．０４７	０．０４０
新井消防署	０．０５０	０．０４０
頸北消防署	０．０４３	０．０５０
頸南消防署	０．０６０	０．０５７
東頸消防署	０．０４７	０．０４０
高士分遣所	０．０４７	０．０４７
名立分遣所	０．０５３	０．０４３

市議会主催の秋の議会報告会・意見交換会の４日目。会場は大島区の地区公民館でした。地域協議会委員など10数人が参加してくださいました。

副議長、各常任委員会からの報告と質疑が順番に行われました。

参加者の質疑・意見では、「公の再配置で診療所はどうなるのか」「新しいセンター病院の位置と完成予定は」「小さな公園の管理が大変だ。委託料は減額ではなく、増やしてもらいたい」「イノシシは個体を減らさないと被害は少なくならない。狩猟免許取得の助成はどうなっているか」「トウガラシやスナックエンドウなどの生産が行われているが付加価値をつける努力をもっと」「大島区内４地区でまとめて毎年80件くらい道路関係の要望を出しているが、対処してもらえるのは数％だ。（改良とか新設ではなく）壊れているものを直してほしいというものだ。行政は機能していないのではないか」などの発言が出ました。

市道管理について質問した参加者からは、「市道大平千原線の千原橋の欄干に穴があいている。子どもが手を入れて、怪我でもしたらたいへんだ」「峠から中野に降りる道（中野峠線？）ではガードレールが押し倒されたままだ」と厳しい指摘がありました。

信じられない思いで、報告会が終わってから、千原橋へ行ってみました。間違いありませんでした。単なる情報伝達の問題とは思えません。お金の使い方の問題なのか、執行体制に問題があるのか、気になります。緊急性があるので、なぜ、こういうことになっているのか、早速、調べたいと思います。